みをつくし

静岡県立浜松みをつくし特別支援学校
令和５年度学校だよりNo.３
令和６年２月 22 日 発行

副校長　荒木　敬一郎

令和６年の甲辰（きのえたつ）は、辰年のキーワードである「変革（転機)」や「激動」が示すように、時代が動く年とも言われます。

また、これまでの努力が実って夢が叶う年とも言い換えられます。

元日の大震災、翌日の羽田衝突事故など誠に痛ましい出来事の年始めとなりました。被災された方々やその御親族、関係の皆様方に謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。被災地の早期の復興をお祈り申し上げます。

大震災や大事故から現在、未来を見据えた準備が急務であることを思い知らされました。改めて平時から学校全体の危機管理意識を高めておく必要性を感じます。

さて、本校では、次年度に向けて防災対応だけでなく被災時対応を意識した取組を考えています。地域の取組についても情報提供をいただき、御協力や連携ができれば幸いです。お気軽にお声掛けください。

また、羽田衝突事故では、客室乗務員の対応により旅客機搭乗者の犠牲が無かったことは世界からも称賛されました。日常の訓練があったからこその奇跡でした。

学校は、命を最優先にした対応を念頭に日々教育活動を行っています。改めて万一の際の判断や対応について、実際的な訓練を実施、継続していきます。こちらも地域の皆様方と一緒に避難時対応や「共助」のつながりが生まれることでインクルーシブな社会の構築につながると期待をします。

文末になりますが、この３月に本校高等部の第一期生が卒業します。文頭に掲げた直近の夢を叶え、自立への扉を開きました。保護者の皆様には喜びもひとしおのこととお祝い申し上げます。居住地域や就労先の皆様にも支えていただきながら個々に精一杯の社会自立を目指して邁進してくれることを祈っています。

卒業生、在校生の更なる成長のために引き続き御支援、御鞭撻の程、よろしくお願い致します。

《本校の地域と関わる学習》

小学部	６年生は１月 30 日（火）に気賀小学校との学校間交流がありました。４年生のときから交流を続けています。今回は気賀小学校で交流を行いました。気賀小学校の子どもたちと一緒にゲームコーナー遊び、遊具遊び、校舎内見学の３つの活動を行いました。やりたいゲームを気賀小学校の児童に伝えて取り組むことができました。また交流後には、「今回の交流が最後だと思うと寂しい。」や「３年間で絆が深まった。」などの手紙が届きました。小学部ではこれからも気賀小学校との交流を続け、深めていきます。	
中学部	地域の特産品について調べました。気賀には「みそまん」が、三ケ日にはみかんを使った饅頭やはちみつを使ったラスクなどがあることが分かりました。天浜線に乗って実際に買い物をしてきました。店の方にお勧めを聞いたり、本物の蜂の巣を見せてもらったりした体験をとおして、地元のおいしいものを知り、地域のおいしいものが、地元の特産品＝お土産になっていくことを実感することができる良い学習になりました。	
高等部	高等部１年生は、11 月 27 日(月)に浜松湖北高校へ行き、農業科・商業科の生徒たちと一緒にみかんの収穫を行いました。浜松湖北高生２人と、本校１～２人がグループになり、写真を使って収穫の仕方を教えてもらいました。みかんを傷つけないように枝を２度切りし、自分たち１年生全員が持ち帰る分 10 個ずつと、12 月５日(火)の給食分 380 個を協力して収穫しました。みかんの収穫後は、浜松湖北高生の作った甘いみかんを試食しながら、お互いの好きな話題で盛り上がりました。	

浜松みをつくし特別支援学校ホームページ

検索

QRコードはこちら